

講義録レポート

講義録コード

19-16-4-101-01

講座	建設業経理士検定講座	科目①	財務諸表
目標年	2016年9月合格目標	科目②	講義
コース	1級コース	回数	1回
		テキスト	Ver.5.0
用途	<input checked="" type="checkbox"/> 個別DVD・集合DVD <input checked="" type="checkbox"/> WEB通信・DL通信・ <input checked="" type="checkbox"/> DVD通信・ <input checked="" type="checkbox"/> 資料通信		

講師名	出浦 敏明 先生	内 訳	板書 枚数	2枚	※レポート 含まず
			補助レジュメ 枚数	4枚	
			その他	枚	

授業構成	前半 68分 → 休憩 10分 → 後半 92分	
実施テスト	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	
対応テスト	<ミニテスト>	第 回
	<答練・演習>	
使用教材	●基本テキスト 合格テキスト P. ~P.	
	●合格トレーニング P. ~P.	
	●その他 [] P. ~P.	
配布教材	●教材(テキスト・問題集) ()	
	●補助レジュメ () <u>4</u> 枚	講義録添付 (有・無)
	●その他 () _____ 枚	講義録添付 (有・無)
備考	<p>* 個別DVD受講生の方へ*</p> <p>正確な講義時間につきましては、DVDケースの背表紙下に記載されていますので適宜ご確認下さい。 (例) ①51 記載の場合、前半講義 51分 (答練・演習の場合は、解説もしくは事前講義 51分を表します)</p> <p>～個別DVD・Web受講生各位～</p> <p>黒板を写すカメラのスイッチング(切替)は講師が行っている都合上、映像中に一部講師が画面に写らない場合もございますが、故障ではありません。音声及び本講義録をご参照の上ご受講ください。受講生の皆様にはご迷惑をおかけいたしまして申し訳ございません。</p>	

TAC建設業経理士検定講座 (16S)

建設業経理士検定試験 1級財務諸表

設 問	形 式	配 点	制限時間
第 1 問	記述式理論問題	20点	90分
第 2 問	記号選択の文章穴埋め問題	14点	
第 3 問	正誤問題	18点	
第 4 問	個別計算問題	12点	
第 5 問	精算表作成の総合問題	36点	

合 計 100点 (原則70点以上合格)

☆合格率 平均20%程度

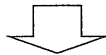
☆合格への道

第1問から第3問の理論問題

第1問の記述式は、難問ですから5割の得点を目指します。

第2問の記号選択は、難しいこともありますが、記号選択ですから7割くらいを狙います！

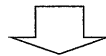
第3問の正誤判断は、二つに一つですから最低でも5割、やはり7割以上を目指します！



授業期は理解することを心がけて学習し、直前期にキーワードを中心に暗記していきます。

第4問、第5問の計算問題

パターン化されており、内容的にも比較的平易といえます。ここは高得点を狙います！！



過去問で繰り返し練習し、完全マスターしてください。

◎一般原則と重要性の原則 (p 10 ~)

1. 真実性の原則

〈要請内容〉

真実な報告を要請

〈理論のポイント〉

ここでいう真実とは、「相対的真実」を意味する

↓

相対的真実性とは、真実 (…正しい金額) は複数あり得るという考え方
認められた会計処理にしたがって作成された財務諸表 ⇒ 真実

↓

認められた会計処理が複数あるので、相対的真実になる！

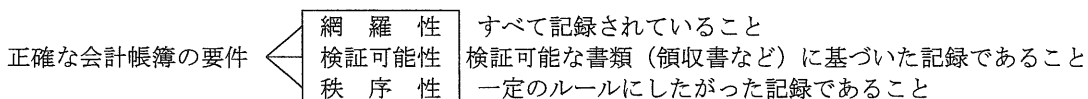
2. 正規の簿記の原則

〈要請内容〉

①正確な会計帳簿の作成

②会計帳簿から誘導的に財務諸表を作成

〈理論のポイント〉



重要性の原則

〈要請内容〉

重要性の乏しいものは、簡便な処理・表示を容認

〈理論のポイント〉

簡便な処理を行うと簿外資産・簿外負債が生じる

↓

帳簿記録の網羅性が損なわれる

↓ しかし

重要性の原則の適用の結果であれば、正規の簿記の原則にしたがった処理として認められる

3. 資本取引・損益取引区別の原則

〈要請内容〉

①資本取引と損益取引を区別

②資本剰余金と利益剰余金を区別

〈理論のポイント〉

資本 (もとで) … 維持すべきもの

利益 (もうけ) … 処分されるもの

資本取引 … もとでの増減をもたらす取引

損益取引 … もうけの増減をもたらす取引



4. 明瞭性の原則

(要請内容)

財務諸表により適正かつ明瞭に企業の情報を開示

(理論のポイント)

具体例

①	P / L ・ B / S の区分表示	}	重要な会計方針 (採用した方法) 重要な後発事象 (*)
②	注 記 (補足情報の注意書き)		

*重要な後発事象とは、貸借対照表日後に発生した事象で、次期以後の財政状態・経営成績に影響を及ぼすものをいう。

5. 継続性の原則

(要請内容)

いったん採用した方法は、每期継続して適用し、みだりに変更してはならない

(理論のポイント)

必要性

①	利益操作の排除
②	期間比較性の確保

6. 保守主義の原則

(要請内容)

予測される将来の危険 (損失) に備えて、慎重な会計処理を行うこと

(理論のポイント)

計算された利益に基づき、税金や配当が支払われる

↓

利益が小さいほど、現金の支出を抑えることができる

↓

利益が小さくなるような会計処理を選択することにより、企業の健全性 (安全性) を保つことができる

*理論的根拠があるわけではなく、実務上の慣行として行われてきたもの。
ルールを逸脱した過度な保守主義は認められない。

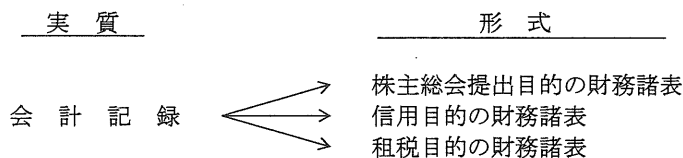
7. 単一性の原則

(要請内容)

異なる形式の財務諸表であっても、同一の会計記録から作成すること

(理論のポイント)

実質一元・形式多元



◎損益計算書 (p 16～)

1. 作成目的 … 経営成績を明らかにする
2. 様 式 … すべてに収益から対応する費用を控除して利益を計算、表示
3. 総額表示 … 相殺せずに取引規模の明示

◎貸借対照表 (p 20～)

1. 作成目的 … 財政状態を明らかにする
2. 様 式 … すべての資産・負債・純資産(資本)を記載
3. 総額表示 … 相殺せずに財政規模の明示

建設業経理士検定 講義録	科目	財務諸表	コース	1級	回数	1
--------------	----	------	-----	----	----	---

配布物	講師	出浦先生
-----	----	------

テキストページ	黒板内容
	<p>第1問： 20点 --- (10点以上) 2 : 14点 > (20点以上) 3 : 18点 > (20点以上) 4 : 12点 > (40点以上) 5 : 36点 > (40点以上)</p> <hr/> <p>100点 (原則70点以上合格)</p>
10	<p>真正 資 明 継 保 単 (重)</p> <p>処理 () 表示</p> <p>【 処理…会計事象の認識や測定 表示…財務諸表の記載方法</p> <p>「~とする。」…原則 「~できる。」…容認 「~しなければならない。」…強制</p>
14	<p>⊙</p> <p>F/S作成日 ×</p> <p>*重要な後発事象</p> <p>当期のF/Sに注記! ← 工場火災 → 次期に「火災損失」を計上</p>

建設業経理士検定 講義録	科目	財務諸表	コース	1級	回数	1
--------------	----	------	-----	----	----	---

配布物		講師	出浦先生
-----	--	----	------

テキストページ	黒板内容
15	「費用は多め、早めに。収益は少なめ、遅めに計上することによって利益を控えめに計算することを要請。」
24	<p>正常営業循環基準</p> <ul style="list-style-type: none">→ 営業循環内 → 流動項目→ 営業循環外 → 一年基準<ul style="list-style-type: none">→ 年以内 → 流動項目→ 年超 → 固定項目